Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

『赤い鳥』の読者投稿欄に関する研究

仲本　美央
（育英短期大学）

はじめに

日本の近代児童文学の成立期といわれる大正時代においては、多くの児童出版物が誕生したが、その中でも重要視されている雑誌の一つが『赤い鳥』である。それだけに、内容豊富な『赤い鳥』の作家・作品・綴り方・文化運動などの文学的アプローチの研究が多くの研究者によって試みられてきた。これらの研究により、『赤い鳥』は廃刊して七十年弱経った現代においてもなお、その文学的価値が評価されている。

本研究においては、この『赤い鳥』の読者投稿欄から、刊行されていた当時の『赤い鳥』がどのような意図・内容を持って読者へと情報を発信し、そして読者自身にどのように受け止められ、発展していったのかを明らかにすることを目的とする。さらに、これまでの研究では取り組まれなかった当時の読者であった人々からの投稿による言葉を探ることで、より具体的な『赤い鳥』の実態を明らかにするものである。

1.『赤い鳥』について

児童文芸雑誌『赤い鳥』は、1918(大正 7)年 7 月に鈴木三重吉主宰のもとで赤い鳥社より創刊された。創刊から 1929(昭和 4)年 3 月までを前期『赤い鳥』、復刊（1931(昭和 6)年 1 月）から 1936 年 12 月までを後期『赤い鳥』と呼ばれ、前期後期合算して通巻 196 冊刊行した。創刊に際し、鈴木三重吉は「童話と童謡を創作する文学的運動」という抱負の下に『赤い鳥』運動を行い、大正デモクラシー思潮・自由主義文化の中で児童文学・児童文化の革新運動へと発展していった。

2. 読者投稿欄の主旨とその名称

『赤い鳥』の読者投稿欄は、創刊時の 1918(大正 7)年から、ほとんど巻末に掲載されていた。前期『赤い鳥』第一巻第一号の読者投稿欄の冒頭には、左記のような文章が掲載されている。記されているとおり、読者投稿欄は「通信」という名称から始まった。この名称は『赤い鳥』終刊に至るまで、使用されていたものであるが、刊行途中に数回の変更および項目別の名称付加がみられた。詳細は表 1 の通りである。

読者投稿欄は、「直接購読者諸君のために…」とあるように読者側の意見や要求、読者同士および読者と

（第一巻第一号七六頁右上冒頭）

この欄は、假りに通信欄と名づけておきます。直接購讀者諸君のために設けました。どうか、子供に關してのさまゝなお意見や、みなさんのお子さま方の、御成長の課程を記念し得る出來事や、皆さんのお互の御交際や「赤い鳥」に對する御批評や御要求など、すべての方面に自由にお使ひ下さいまし。私どもも、みなさんへ申し上げるお話は、この欄でいたします。藝術作品の批評もこゝへ書きます。御來書が多くなれば、二倍までには擴大いたします。（記者）

『赤い鳥』編集側との交流の場等といった読者側の立場を尊重するためという主旨のもとに設けられていた。それだけに創刊当初は、その掲載内容は『赤い鳥』に対する意見・感想・要求・提案や読者である子どもたちの日常の姿、読者同士の交流の声等が主であった。しかし、その内容は時代の流れと共に変化していき、その変化した内容に沿って変更されてきたのが読者投稿欄の名称であった。

＜表 1＞　読者投稿欄の名称

	巻号数	名称
1	(前期)第一巻第一号～第一巻第六号	「通信」
2	第二巻第一号～第三巻第一号	「少年少女」「通信」
3	第三巻第二号～第五巻第一号	「通信」
4	五巻第二号～第五巻第三号	名称なし
5	第五巻第四号～第十三巻第二号	「通信」
6	第十三巻第三号～第十三巻第六号	「通信」「赤い鳥付録」
7	第十四巻第一号～第十六巻第一号	「通信」
8	第十六巻第二号～第十八巻第四号	「講話」
9	第十八巻第五号～第十九巻第一号	「講話」「通信」
10	第十九巻第二号～第二十二巻三一号	「通信」
11	(後期)第一巻第一号～第七巻第六号	「講話」「通信」
12	第八巻第一号～第八巻第二号	「通信」
13	第八巻第三号～第十巻第五号	「講話」「通信」
14	第十巻第六号	名称なし
15	第十一巻第一号～第十一巻第六号	「講話」「通信」
16	第十二巻第一号	「通信」
17	第十二巻第二号	名称なし
18	第十二巻第三号	「編集室から」

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

3．読者投稿欄の内容

『赤い鳥』読者投稿欄の内容について取り上げる。全ての内容について調べた結果は、表２のようであった。

＜表２＞　読者投稿欄の内容　　※前…前期　後…後期

	内　容	回数	掲載期間
1	綴方・童話・幼年読物の選評	221	前第一巻第一号～後第十二巻第一号
2	綴方研究・綴方の注意	11	前第三巻第四号～前第四巻第六号
3	投稿作品の当選者名簿	181	前第一巻第一号～後第十一巻第五号
4	地方童話・各地遊戯法	7	前第三巻第三号～前第四巻第二号
5	童謡・自由詩の選評	176	前第一巻第一号～後第十一巻第四号
6	地方童謡	64	前第二巻第四号～前第二十一巻第五号
7	自由画選評	119	前第四巻第四号～後第六巻第五号
8	自由画作品	42	前第七巻第二号～後第六巻第五号
9	曲譜選評	35	前第二巻第六号～前第二十二巻第一号
10	赤い鳥に対する感想・意見等	615	前第一巻第一号～後第十一巻第四号
11	日常の出来事や考え	114	前第一巻第一号～後第十一巻第六号
12	読者の質問・要求等への解答	107	前第一巻第一号～後第九巻第二号
13	本の紹介	86	前第四巻第二号～後第十一巻第六号
14	お知らせ・訂正	143	前第一巻第一号～後第十一巻第六号
15	写真	39	前第三巻第四号～後第十巻第六号
16	赤い鳥の会会員募集	20	前第十五巻第四号～前第十九巻第二号
17	赤い鳥会員（愛読家）名簿	113	前第一巻第三号～後第十一巻第五号
18	赤い鳥の部会名簿	3	前第十六巻第一号～前第十七巻第二号
19	赤い鳥の会部会通信	1	前第十七巻第二号
20	赤い鳥特選図書購読会	13	前第五巻第一号～前第六巻第六号
21	赤い鳥特選図書購読会員名簿	15	前第五巻第一号～前第七巻第六号
22	日本騎道少年団について	2	前第二十巻第六号～後第一巻第五号
23	震災私信	1	前第十一巻第四号
24	科学読物について	3	前第八巻第一号～前第十六巻第二号
25	少年少女用図書特選	3	前第四巻第四号～前第四巻第六号
26	満一周年を迎えて	1	後第三巻第一号
27	幼児の詩	1	後第四巻第一号
28	矯正治療推賞	3	後第四巻第六号～後第五巻第三号
29	昔の笑い話	10	後第五巻第六号～後第八巻第三号
30	誌代未納について	10	後第二巻第一号～後第十一巻第二号
31	三重吉著の綴方読本について	6	後第十一巻第三号-後第十一巻第四号
32	鈴木三重吉から愛読家諸君へ	59	後第一巻第一号～後第十二巻第一号
33	鈴木三重吉死去報告	1	後第十二巻第二号
34	追悼号について	1	後第十二巻第三号
35	その他	30	前第一巻第一号～後第九巻第二号

上記のような内容のから次のようなことが明らかとなった。

(1)『赤い鳥』の読者投稿欄は、創刊当初には読者同士及び読者と『赤い鳥』の編集者側との交流の場として、その欄を設けていたが、『赤い鳥』側の時代の流れによる主旨の変化によって、読者の声の掲載が増加したり減少したりしていた。この背景には、自由教育運動として『赤い鳥』が打ち出していた綴り方・童話・童謡・自由詩・自由画・曲譜などの普及振興が大きな影響を与えていた。

(2)読者の赤い鳥に対する意見や質問、要求、疑問などを掲載し、赤い鳥編集側からそれらの質問や要求に対して解答している内容から、読者のための雑誌として、『赤い鳥』の内容変革に読者の意見を多く取り入れ、実行していた。

(3)読者の投稿内容から、『赤い鳥』の読者は「享受者としての子ども」「子どもの本の選び手となる親や先生といった大人」「童話などの投稿を行った文学者を目指す大人」「『赤い鳥』を一つの文学作品として読む文学者」など様々であった。

(4)鈴木三重吉は、創刊当初からこの読者投稿欄を活用して読者に対してさまざま活動の働きかけを行っていた。特に、後期赤い鳥においては「愛読家諸君へ」という欄を設け、支部会などの活性化を促していた。そこには、『赤い鳥』の理想とする読者像が現れていた。

(5)読者投稿欄の名称は、(1)にあげられたような内容の変遷によって、随時変更されていた。

(6)当時の『赤い鳥』の読者は、『赤い鳥』を購読を楽しみ、受容していただけでなく、その『赤い鳥』の与えたモットーに沿って活動し、周辺へと活動を広げていた。さらには、読者投稿欄内において、雑誌の内容を編集者と共に吟味し、発展させた。

4.おわりに

今回の研究においては、『赤い鳥』読者投稿欄の内容のみにしか焦点を当てきれず、それをまとめるのみに終わってしまった。しかし、この研究結果から、読者投稿欄の研究に留まらず、『赤い鳥』研究のあらゆる分野での貴重な資料が多く含まれていると考える。今後は、読者投稿欄以外の『赤い鳥』の内容や『赤い鳥』関係者、時代的背景等と照らし合わせながら、より深く読者投稿欄から『赤い鳥』を探っていきたいと考える。

参考文献

1)『赤い鳥』複刻版　（前期）第一巻第一号～第二十二巻第三号（後期）第一巻第一号～第十二巻第三号　ほるぷ出版.
2)中村　悦子　『幼年絵雑誌の世界』　高文堂出版社　1989.
3)日本児童文学学会編　『児童文学事典』　東京書籍　1988.

NII-Electronic Library Service